

「食育推進計画（第3次）平成29年度～令和3年度」を踏まえた令和元年度の取組

資料1-2

基本理念と基本方針

【基本理念】心身の健康の増進と豊かな人間形成、明るい家庭と元気な地域づくりの実現
 【基本方針】①全ての県民がさらに食育活動を進める ②全ての関係者で食に関する環境の整備を図る
 ③ひょうごらしさを活かした食育をすすめる（ひょうご五つの国の特徴、震災の経験と教訓）

現状

- ①家族形態の多様化と食生活の変化
 【世帯数（千世帯）】総数：⑦1,868→⑦2,312
 単独：⑦418→⑦756、夫婦と子ども：⑦705→⑦668
 ・朝食喫食者：②⑧20～30歳代61.7%（他世代87.4%）
- ②高齢者の5人に1人は低栄養傾向（BMI≤20kg/m²）
- ③地産地消の進展、食と「農」に親しむ機会の増加
- ④全国的にも生産量上位で高評価の農林水産物あり
- ⑤食育に関心のある人と食育実践者の乖離

重点課題

- ①若い世代の食育力の強化
 ・食に関する知識と実践力の向上（毎日朝食を食べる等）
 ・次世代（親から子）へ伝え繋げる食育
- ②健やかな暮らし方を支援するための食育推進
 ・健康寿命の延伸につながる減塩等の推進
 ・肥満や生活習慣病、フレイルの予防・改善
- ③食や「農」への理解を促進するための食育推進
 ・地産地消の意識の浸透
- ④食育活動の充実に向けた連携推進体制の充実

平成30年度末時点の取組

柱	指 標	計画策定時 の実績	H30実績	R3目標値	評価	
(柱1) 若い世代を食生活の中心とした実践	朝食を食べる人の割合の増加	(幼児1～5歳)	93.2%	92.5%※	100%	▲
		(児童・生徒6～14歳)	93.4%	91.2%※	100%	▲
		(15～19歳)	85.6%	79.8%※	95%以上	▲
		(20歳代男性)	51.4%	45.6%※	57%以上	▲
		(20歳代女性)	69.2%	69.1%※	76%以上	▲
		(30歳代男性)	66.8%	53.6%※	73%以上	▲
		(30歳代女性)	82.0%	74.1%※	90%以上	▲
	朝食に副菜(野菜、芋料理、野菜たっぷり汁物)を食べている子どもの割合の増加(1～14歳)	29.3%	30.0%※	35%以上	○	
	給食施設(学校・児童福祉施設)において肥満・やせの状況を把握している割合の増加	78.3%	87.9%	100%	○	
	公立小中特別支援学校教職員の食に関する研修の受講率の増加	26.5%	24.8%	50%以上	▲	
学校給食での県産品使用割合の増加	29.7%	28.4%	35%以上	▲		
食育を7教科の中で実施した中学校の割合の増加(技術家庭科、保健体育を除く)	-	44.6%	100%	-		
家庭・地域と連携した取組みを行った学校(のべ数)の増加	3,718校	3,647校	4,500校	▲		
(柱2) 支えやかな暮らしを推進	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上、ほぼ毎日食べている人の割合の増加(20歳以上)	-	42.8%※	70%以上	-	
	食事づくり(買物・調理・後片づけ)に参加する人の割合の増加(20歳以上)	(男性)	70.6%	68.3%	75%以上	▲
		(女性)	94.0%	94.4%	95%以上	○
	毎日、家族や友人と楽しく食事をする人の割合の増加(20歳以上)	57.3%	82.0%※	68%以上	◎	
	食の健康協力店の店舗数の増加	(登録店舗数)	7,947店	8,410店	9,000店	○
	食の健康協力店の取り組み内容の充実	(栄養成分の表示)	2,890店	3,233店	3,200店→3,300店	◎
災害に備え、非常用食料などを備蓄している世帯の割合の増加(世帯)	61.7%	70.0%※	75%以上	○		
(柱3) 「食」に関わる農生活の積極的推進	地元や県内でとれた農林水産物を買っている人の割合の増加	71.7%	68.6%	81.0%	▲	
	直売所等利用者数の増加	2,384万人	2,765万人	2,830万人	○	
	兵庫県認証食品流通割合(生鮮)の増加	27.7%	39.1%	41.0%	○	
	兵庫県認証食品の加工食品数の増加	842品目	794品目	1,030品目	▲	
	楽農生活交流人口数の増加	1,153万人/年	1,131万人/年	1,160万人/年	▲	
地域の行事食、郷土料理を知っている人、作ることができる人の割合の増加(20歳以上)	(知っている人)	41.4%	61.0%	50%以上	◎	
	(作ることができる人)	18.4%	43.3%	25%以上	◎	
(柱4) 整った食育の推進体制	食育に関心のある人の割合の増加(20歳以上)	86.8%	81.9%	90%以上	▲	
	食育の意義を理解し、食育活動を実践している人の割合の増加(20歳以上)	47.4%	61.2%	60%以上	◎	
	地域と連携した食育活動に取り組む組織・団体の増加	360団体	535団体	610団体	○	
	地域団体・関係団体が参画した市町食育推進会議の開催	19市町	30市町	全市町	○	

※ H28実績

令和元年度の主な取組

柱1：若い世代を中心とした健全な食生活の実践

- ①おやこ de キッキングの開催【兵庫県いずみ会・男女家庭課】
親子を対象に、食の大切さへの理解を深める料理教室を開催
- ②**拡** 学校教育活動全体での食育を実践【体育保健課】
「学校における食育実践プログラム(改訂版)」等の活用と、新たに「教職員用食育ハンドブック(中学校版)」を作成し、中学校での更なる食育推進
- ③**拡** 大学生向け朝食摂取率向上プロジェクトの開催【兵庫県栄養士会・健康増進課】
大学生への歯科検診等、様々な機会を捉えて朝食摂取に向けた普及啓発
- ④「子ども食堂」応援プロジェクトの実施【生活支援課】(R元年計画：15団体補助)

H30末実績	R元計画
37会場1,012名	38会場

食で育む 元気なひょうご
 “プラス1の食育実践”

柱2：健やかな暮らしを支える食育活動の推進

- ①**新** 美味しく、ヘルシー社食ごはん改革の実施【健康増進課】
健康づくりチャレンジ企業と連携し、社員食堂等の食生活改善
- ②**拡** フレイル予防・改善プログラムの普及【健康増進課】
市町が専門職や配食事業者等と連携し、公民館など高齢者の集いの場において、口腔機能の向上と栄養状態の改善を行う実践メニューの展開
- ③ 健やか食育プロジェクト事業の実施【健康増進課】
各健康福祉事務所において、重点テーマを定め、保健・農林・教育・商工等地域の食育関係者と幅広く連携し、食育実践活動を展開(減塩の普及啓発、壮年期のメタボ予防、高齢期の低栄養予防等)
- ④「食の健康協力店」の登録と普及啓発【健康増進課】(R元年計画：8,600店)



柱3：食や「農」に積極的に関わる活動の推進

- ①学校給食における食育推進と県産農林水産物の利用向上の促進【楽農生活室】
- ②農業体験による楽農生活の推進【兵庫楽農生活センター】
親子を対象にお米や黒大豆づくりの体験教室を開催
- ③魚食普及の推進【県漁連・県漁協女性部連合会等】
魚を自分で調理できる食材として親しめるよう、料理講習会の開催や大規模小売店での対面販売促進等の活動を展開
- ④ふるさと料理講習会の開催【兵庫県いずみ会・健康増進課】
子育て世代を対象に、主食・主菜・副菜の揃った日本型食生活や郷土料理を伝える料理教室を開催

H30末実績	R元計画
米101家族 黒豆41家族 魚食457回、16,449人	米100家族 黒豆40家族 魚食400回



(親子農業体験)

柱4：食育推進のための体制整備

- ①「ごはん」「大豆」「減塩」を柱とした「ひょうご“食の健康”運動」の展開【健康増進課】
食の健康運動リーダー1,000人が3,500回の調理実習を開催
- ②ひょうご「食育月間(10月)」の普及啓発【健康増進課】
食育絵手紙コンクールでは震災25年を迎え、「災害時の食に備え、今からできることを伝えるメッセージ」を募集



(食育絵手紙コンクール)

評価	◎：目標値を達成	○：直近値が計画策定時の現状値と比較して向上	▲：直近値が計画策定時の現状値と比較して進捗がみられない
----	----------	------------------------	------------------------------